

目次

日本絵画とは——鑑賞の秘訣···
この本の見方···
cc8
cc6



01

水墨画

c10

雪舟等楊

山水長巻

長さ16メートルの画卷のなかで自由自在に旅をする

長谷川等伯

松林図屏風

現実の風景なのか。日本の湿润な空気に沈む松林

02

狩野派

c20

狩野永徳

唐獅子図屏風

桃山絵画の生みの親、戦乱の世に巨大な獅子を描く

狩野探幽

波濤群燕図

おおらかな太平の世。のびのびと空に舞う燕たち

狩野山雪

老梅図襖

垂直に曲がる枝、ソクソクとさせる奇妙な形

英一蝶

布晒舞図

軽やかに白布が舞う。無心に踊る少女の上品な魅力

03



曾我派

c38

曾我一直庵

梅鷹図屏風

雪景のなか、春を待ちながら、武将好みの鷹を眺める



c30

c33 c29 c25 c21

c15 c11

04 土佐派



土佐光起 石山寺縁起絵巻 c44

月を眺める紫式部。源氏物語、着想の現場

05 浮世絵の先駆

岩佐又兵衛 浄瑠璃物語絵巻 c50

恐るべき密度で描かれた、男と女のラブロマンス

06 琳派



c56

俵屋宗達 風神雷神図屏風

琳派のはじまり。空中で動きまわる奇妙な神々

尾形光琳 燕子花図屏風

きれい、素敵、格好いい。見えるまま、空間の迫力を楽しむ

07 南蘋派

c66

宋紫石 寒梅綬帶鳥図

中国経由の西洋画法が、江戸のマンネリズムを打破

08 文人画・南画

c72

与謝蕪村 鳥鳴図

吹きすさぶ風、降り積もる雪、静かに耐える鳥たち



c81 c77 c73

谷文晁 熊野舟行図

博識ゆえの懐の深さ。何でも取り入れる雑食性

渡辺崋山 市河米庵像

一家老が描く、「徳」を積んだ人物の透明感のある肖像画

09



円山派

c86

円山応挙

雪松図屏風

写実の果てに行き着いた、塗り残しによる雪や光の表現



c87



c67

c61 c57

c51

c45

長沢蘆雪

月夜山水図

霧の向こう、おぼろ月のなかに浮かぶ一本の松

菱川師宣
宮川長春
葛飾北斎
歌川広重
月岡芳年

見返り美人図 遊女聞香図

浮世絵は顔が命。気品に満ちた表情
見る者をクラクラさせる、刺激的な花鳥図



富嶽三十六景
名所江戸百景
藤原保昌

大はしあたけの夕立 月下弄笛図

江戸の風景に身を置き、しみじみと風情を味わう
満月の夜、二人の男のある一瞬の緊張を描いた錦絵

浮世絵

c96

奇想美

n8

伊藤若冲
曾我蕭白
老松白鶴図
美人図

何ゆえ裸足なのか。エキセントリックな女性の立ち姿



109

123

120

109

103

103

109

105

101

697

691

II

12

秋田蘭画

128

佐竹曙山

竹に文鳥図

殿様だつて絵を描きたい。洋画の香りを漂わせて



135

13

復古大和絵派

134

岡田為恭

源氏物語図

王朝文化にのめり込み、大和絵にどっぷり浸る



140

14

近代日本画

140

狩野芳崖

悲母觀音像

孫の成長を思う気持ち。「母性」と結びつく

141

日本絵画のエッセンス



- | | |
|---------------------|-----|
| 1. 屏風の姿——その名称··· | 019 |
| 2. 狩野派の絵師たち··· | 037 |
| 3. 金色の雲——空間を仕切る··· | 043 |
| 4. その時代の限定色··· | 049 |
| 5. 真贋を見分ける秘訣とは··· | 055 |
| 6. 梅の花の描き方··· | 065 |
| 7. 箱から判断できること··· | 071 |
| 8. 見出し——蔵のインデックス··· | 085 |
| 9. リアルなマンガは白い?··· | 095 |
| 10. 浮世絵版画のできるまで··· | 107 |
| 11. 立体的な浮世絵··· | 127 |
| 12. 高い浮世絵、安い浮世絵··· | 133 |
| 13. 「風香」——吉祥の掛け軸··· | 139 |
| 14. 写実のゆくえ··· | 157 |

横山大観
竹内栖鳳
上村松園

蓬萊山
班猫
晚秋

感風堂々。これ以上ない「日本の」なモチーフ
光により表現された、思わず触りたくなる毛並みの美しさ
女性の美しい仕草、芯の強さを、誰よりも気品高く

あとがき···
おもな参考文献···

158

159



153 149 145



OI 水墨画

すいぼくが

キーワード：僧侶、モノクローム、山水

時代
鎌倉時代の後期から

白い紙や絹に墨で描く水墨画。日本には中国から禪宗の文化と一緒に、鎌倉時代に入ってきました。とりわけ武家たちは、色のないモノクロームの世界に惹きつけられます。そして室町時代になると、水墨画の画壇ができます。そのなかで一人、画壇を離れ、「自分の水墨画」を描いたのが、雪舟等楊でした。水墨画しか描かなかつた雪舟に対して、キンキラの障壁画を描きながら、鬼つ子のような水墨画を描いてしまつた長谷川等伯を紹介します。

1420-1506

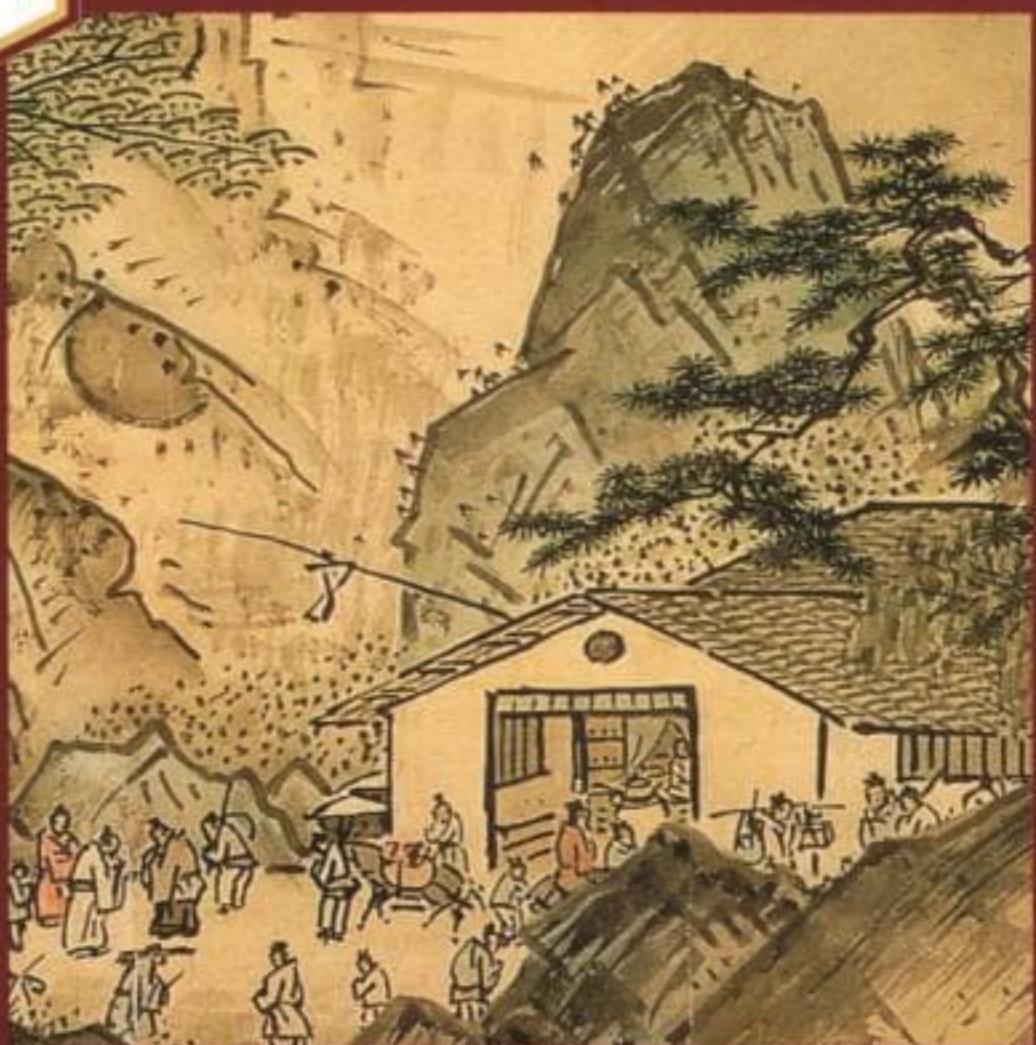
雪舟等楊

せっしゅう・とうよう

さん すい ちょう かん
山水長卷

長さ 16 メートルの
画卷のなかで
自由自在に旅をする

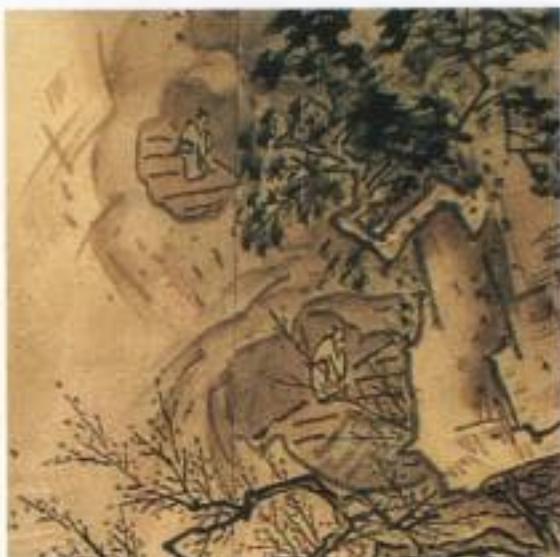
close-up!



ここに注目

馬ではなく驢馬

このシーンは山市の場面。人びとのざわめきが聞こえてきそうです。荷物を運んでいる動物は、腰の下がり具合などから、馬ではなく驢馬だとわかります。



山道を上る人

徐々に道は急坂になり、それでもかなり上の方まで旅人が歩いています。

この絵は、縦が40センチ、長さが16メートル、日本でも最大級の画巻です。岩場あり、水辺あり、城壁あり。さまざまな場面が登場するのですが、写真はなかでも一番賑やかな、山市のシーンです。

写真中央下に、暖簾の下がつた店が見えます。酒か何か呑んでいるのか。驢馬を連れた旅人が往来し、群集がいて、そ

**わずかな彩色が冴える。
太くて無骨、
温かみのある独特的な線**

モチーフ解説

山水画 —心のなかの風景



山水画は風景画ではありません。現実と虚構が入り交じる、心象風景です。山や岩、水や木は、中国の絵画のモチーフに由来しており、多くの場合、現

実感が希薄です。この絵は南宋の画家・夏珪の模本に登場するいくつかのモチーフを自由に組み合わせています。どことなく中国の雰囲気から脱却していませんか？さらに風景の日本化を推し進めたのが『四季山水図』といわれています。

の道をたどっていくと、何軒か家があつて、角を曲がると、いったん道は岩陰に隠れて、石段みたいな坂道があつて……。

画巻や巻物だけでなく、難解に見える中国の山水画なども、ぜひ歩いていく感覚で絵を見てください。自分もそこに入つてください。自分もそこに入つて一體感を味わえるのが、優れた絵であるといえます。

一方で下手な絵は、「あれ、あ

の道はどこいつちやつた？」と、つながりがわからなくなります。写し絵なら写し損ないもあるし、筆力が足りなくて奥行きが出せないなど、矛盾が増えてきます。

この絵は、雪舟独特の太く無骨な筆づかいが身上です。ただし長い画巻のなかで、いろいろな筆致が出てきます。岩場は激しく、水辺は穏やか、この山市のシーンはリズミカルです。



永遠に続く水墨画の景色。 画卷に入り込み、一体感を味わう

日本最大級の画卷。これを描かせたバトロンは、
山口の大内家。その後、大内家を滅ぼした毛利家の手に渡り、
現在に至っている。



山水長卷、1486(文明18)年、一巻、紙本墨画淡彩、国宝、40.8×1602.3cm [毛利博物館蔵]

安河内眞美の見所・勘所

雪舟の絵には、上手いとか下手とか、簡単にはいえない何かがあります。この絵にしても、激しさと、何ともいえない優しさが同居しています。筆致も手を抜いたようなところもある。それでも全体のバランスがとれているのが不思議です。

雪舟は、昔から「雪舟風」の絵がたくさん出まわっていました。美術館の収蔵品でも「間違いなく雪舟」と太鼓判を押せるものは数点しかありません。画壇を支配していた狩野派が師と仰ぎ、諸大名が雪舟の作品を求めてことから、そのニーズに応えるようにして増えていったのではないかと思います。大名家にとつて雪舟は必需品だったのです。



出世街道から逃れ、留学で新機軸

水墨画を目指す誰もが憧れる、中国の明。

雪舟は、遣明船に乗り、足かけ3年の

旅をします。当時の中国帰りは、

明治の洋行帰りにも等しく、自信を得た雪舟の
絵には、帰国後、力強い筆致が生まれます。

●一四二〇年：一歳

地侍の子として、岡山・赤浜に生まれ
る。10歳前後で出家する。

●年号不明

京都の相国寺の高僧に弟子入りする
が、エリートコースが肌に合わず、山口
へ都落ちする。

●一四六七年：四八歳

遣明船の一員になり、水墨画の故郷、
中国の明に渡る。

●一五〇六年：八七歳

没する。詳細は不明。

こんな一面も…今も大人気の雪舟。教科書に
もよく登場し、美談が加わり、近代になつてか
らのやみくもな崇拜から神聖化されてきた面
があります。素顔の雪舟とは?



1539-1610

長谷川等伯

はせがわ・とうはく

しょうりん ず びょうぶ
松林図屏風

現実の風景なのか。

日本の湿潤な

空氣に沈む松林

close-up!



ここに注目

ウエット感

日本の湿潤な空気感を、霧に霞む松林で表現しています。ミストに満たされた風景のなかで、森林浴をしてみてください。